

2021年12月13日より「Together We(トゥギザーウィー)」キャンペーンが始まりました!

TOGETHER WE ACT TODAY FOR A BETTER TOMORROW

ともに私たちは より良い明日のために 今日行動しよう

TOGETHER WE というテーマ

このキャンペーンのタイトルは『ラウダート・シ』と『兄弟の皆さん』という教皇フランシスコによる二つの回勅を、1つのカリタス家族として実践していくという私たちの強い決意を反映しています。

このキャンペーンは、特に草の根レベルで、貧困と闘い、排除された人々の尊厳を取り戻し、自然を保護する行動を、総合的エコロジーの精神に基づいて実践する新しい種類の連帯を作り出そう、という教皇フランシスコの呼びかけに応える私たちの取組みです。

2021年12月13日 開始 → 1年目 「気づき」の年 → 2年目 「行動」の年 → 3年目 「祝い」の年 → 2024年12月 終了 → 最終評価

“Together We”キャンペーンの祈り

わたしたちの父である神よ、あなたは豊かな恵みによって、天と地、すべてのもの良いものとして造られました。創造の業をともに大切にするため、あなたの似姿として造られたわたしたちに呼びかけてくださいました。

主よ、あわれんでください。わたしたちはみこころに従わず罪を犯しました。ともに住む家である地球を傷つけてしまったわたしたちに、見守るための心をお与えてください。ケアの文化を育むものとなるために、わたしたちの行いを導いてください。

御子イエスが貧しくなられたのは、その貧しさによってわたしたちが豊かになるためです。

御子のように、自らを明け渡すことができるようわたしたちを助けてください。神よ、あなたが喜んでお与えになったすべての創造の賜物を分かち合うことができますように。

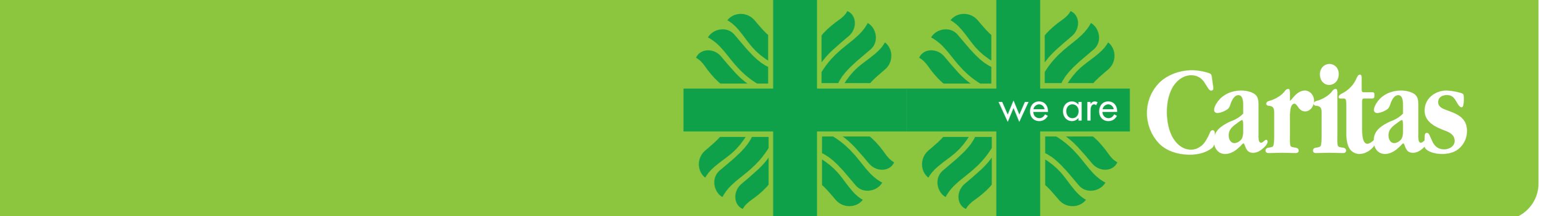
深く愛することができるようわたしたちを強めてください。心の中にある隔たりを乗り越え、人類が一つの家族になることができますように。

聖靈を遣わしてください。わたしたちの周りで起こっていることに無関心になりませんように。わたしたちのかわいた心を潤し、愛の火を燃えたたせてください。

アーメン

7人の手は、国際カリタスの7つの地域が手を結んで取組むことを意味しています。世界中で、このキャンペーンをつないでいきましょう。

キャンペーンの参加方法などは、We are Caritas25号(夏号)で特集致します!



いつまでも 一緒に道を歩みたい

ナイロビでチャーター機に乗り継いで当時のザイール東部、ルワンダとの国境地帯にあった難民キャンプへ出かけたのが27年前、1995年3月末のことでした。その一年前、歴史に残る虐殺事件が起り、それに続く政権崩壊と難民の近隣国への大流出。ルワンダ難民キャンプで過ごしたこの三ヶ月ほどが、カリタスジャパンと私の関わりの始まりです。

それから27年間、援助部会委員や委員会の秘書、2004年に司教になってからは、責任者も務めさせていただきました。その間、カリタスアジア総裁にも選出され、8年間務めました。

このたび司教の担当改選で、責任者を新潟教区の成井司教様に交代していただきました。

この27年間で、忘れる事のできない言葉があります。幾たびも、しかも全く異なる人たちの口から聞かされた「わたしたちは、世界から忘れ去られてしまった」という言葉です。

最初にこの言葉を耳にしたのは、95年に二度目となる視察訪問をしたルワンダ難民キャンプでした。あるキャンプで、生活の状況や必要を聞かせてくれていた難民のリーダーが、突然「わたしたちは、世界から忘れ去られてしまった」と言うのです。災害や紛争が起ると、当初は世界中からありとあらゆる人が救援に押し寄せるが、しばらくすると波が引くようになくなってしまう。そんなときに口をついて出る、心の叫びです。

それ以降、訪問する多くの現場で、同じ言葉を耳にしてきました。アフリカやアジアの災害や紛争の現場で、そして東北の被災地でもそうでした。

教皇様が東京で、東北の被災の方々と出会ったときの、復興には「展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠」だと言う言葉が心に響きます。この27年間、いつも心に留めていたのは「わたしたちは、世界から忘れ去られてしまった」というあの言葉であり、その思いを生み出さないような関わりをすることでした。

カリタスジャパンは、他の国のカリタス組織と比較すれば、小さな組織です。そもそも教会自体が、日本では小さな存在です。しかしカリタスジャパンの背後には世界中のカリタスのネットワークがあります。小さいけれど、大きく貢献する可能性を持っています。これからもカリタスジャパンには、いつまでも一緒に道を歩み続ける姿を具体的に示して「忘れられてしまった」と感じる人のいない世界の実現を追い求めていただきたいと願っています。

カリタスジャパン 前責任司教 菊地 功

カリタスジャパンの活動へのご支援を今後ともよろしくお願いいたします

カリタスジャパンの活動は皆様の日々の募金と「四旬節の献金」によって支えられています。募金専用のゆうちょ銀行払込票をご用意しておりますので事務局までご請求ください。

○匿名をご希望の方は、払込票の所定の欄に印、または通信欄に明記ください。
○口座について、払込票の所定欄に印、または通信欄に明記ください。
*記入がない場合は「最優先の援助先」とさせていただきます。
*呼びかけ受付中の募金は、カリタスジャパンのホームページにてご案内しております。

【2021年10月1日～12月31日の献金額】
(単位:円)
CJ運営寄付 157,967
本年四旬節 227,248
国内援助 1,862,213
海外援助 2,797,754
クリスマス募金 18,754,018
マンスリーサポーター 2,426,500
東日本大震災 105,403
スター支援 174,695
新型コロナ募金 6,405,871
合計 32,911,669

編集後記

今年の四旬節は、ウクライナの人々に心を寄せて祈り、募金してくださった方も多くいらっしゃったと思います。例え戦争が終結してもすぐに元の生活に戻るわけではありません。これから、崩壊した街の復興、人々が負った体と心の傷が癒えるためには何年もの月日が必要です。戦禍による困難な状況におかれている人々に、キリストの復活が希望の光と人々の癒しとなりますように。

We are Caritas No.24(2022年春号)
郵便振替番号 00170-5-95979
宗教法人トリック中央協議会 カリタスジャパン
発行人 成井大介
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464 Email:info@caritas.jp URL <https://www.caritas.jp>

f <https://www.facebook.com/caritashanjan>





モンゴルは人口が極端に少なく、国内市場が小さいため経済が安定しません。首都ウランバートルには、田舎からの出稼ぎ労働者が数多く移り住んでいますが、厳しい冬の間、人々は家にこもりがちとなり、アルコールの過剰摂取や家庭内暴力による問題も後を絶ちません。そして子どもがいるために働きに出られない両親も多くいます。カリタスマンゴルでは大切にしています。



アマゾンの熱帯雨林は、地球上の全降雨量の三分の一と五分の一の酸素を供給するとともに、300万人の先住民とその他の住人3100万人の暮らしを守っています。しかし過去50年間でその20%が伐採され、命と暮らしが脅かされてきました。国際カリタスはアマゾン地域の9つの国^{*}の教会とともにREPAM(アマゾン教会ネットワーク)を設立し、アマゾンに住む

人びとの尊厳と権利を促進する活動を推進しています。「アマゾン人権学校」はその一つで、アマゾン地域のリーダーが地域の主体性、集団的権利、国際的な人権保護制度、アドボカシーなどを学びながら、自らの力でコミュニティの将来をつくっていくプロセスの回復を支援しています。

* ブラジル、ボリビア、ペルー、エクアドル、コロンビア、ベネズエラ、ガイアナ、フランス領ギアナ、スリナム

August & September
8・9
月

南スーサン



South Sudan

長い紛争を経て2011年に独立した南スーザンは、世界で最も新しい国の一つです。しかし、荒廃した社会システムと厳しい自然環境、長引く政治不安の中で、独立から10年を経ても人々の生活は厳しいままです。カリタスジャパンはカリタス南スーザンを通じて、ジュバをはじめとした7つの都市の人々に、食料やシェルターの提供など緊急支援を行っています。

また、人々の相互理解を通じた平和構築のため、部族間の交流の促進や農業技術の研修、農機具の提供などを実施し、持続的に安定した社会づくりを目指しています。こうした活動を通じて、多くのボランティアが育成されていますが、南スーザンの人々が、自らの力で立ち上がるための支援をこれからも継続していきます。

四旬節小冊子 2022

四旬節小冊子2022では、年間を通してカリタスの支援活動に触れていただけるように、各地における支援活動の写真を配したカレンダーを掲載しています。

今号にて、掲載した写真、活動の内容等をご紹介いたします。

*四旬節小冊子2022は年間を通してご活用いただけます。ご入用の方は事務局(03-5632-4439)までご連絡下さい。



多くの国と同様、エチオピアの特に地方で水不足は、女性と子どもの役割とされ、往復数時間かけて出かけることが日課となっています。そのため、子どもたちが学校にいけなかったり、女性たちが病気になってしましました。そこでカリタスエチオピアは水資源プロジェクトを実施し、コミュニティから近い場所に水源を提供するとともにロバを配給し、女性と子どもが背負っている重労働を軽減しました。さらに、女性たちが豊富な水と時間を有効活用して家庭菜園を改善し、作物の種類や量が増えたことで「食糧の安全保障(Food Security)」にも役立っています。



世界で最も難民を受け入れている国トルコには、シリア難民を含めた400万人近くの難民が暮らしています。その受け入れ数はドイツの3倍(*UNHCR2021)にもおよび、ヨーロッパに向かう中東からの難民の大きさ、食料や医療サービスなどの提供にとどまらない、社会における人々の再統合を目指した活動を続けています。カリタストルコでは、イタリアやスペイン、ドイツをはじめとしたヨーロッパ各国のカリタスと協働し、難民を「哀れみの対象」としてではなく、「自らの(社会的)発展の主体である」と位置づけ、食料や医療サービスなどの提供にとどまらない、社会における人々の再統合を目指した活動を続けています。

援助実績一覧(2021年9月～12月)

	援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)
緊急支援要請	バングラデシュ	サイクロンヤースによるバングラデシュの被災者支援事業	カリタスバングラデシュ	557,400
	ギリシャ	ギリシャ山火事への対応	カリタスギリシャ	649,450
	ハイチ	2021年8月地震による被災者支援	カリタスハイチ	1,289,600
	パキスタン	アフガン難民対応2021	カリタスピキスタン	1,292,300
	パキスタン	2021年地震対応	カリタスピキスタン	1,328,500
	ハイチ	2021年8月14日地震の影響を受けた世帯への復興支援	カリタスハイチ	1,282,000
海外援助	タンザニア	ヴィタンドゴ プロジェクト	カリタスマンザ	3,522,470
新型コロナ緊急支援(国内)	横浜教区	コロナ禍で生活基盤を失った方への食品支援事業	報徳支援食品センター	1,000,000
	大阪教区	2021年ホームレス生活支援・入居後生活支援実施上の新型コロナ対策事業	和歌山ホームレス支援機構	1,545,000
国内援助	那覇教区	New Revival Academy開設事業	DARC 大きな和	5,500,000
	仙台教区	コミュニティ支援事業と第一次産業支援事業	カリタス南三陸	3,385,306